



TITLE:

# <大會抄録>一三世紀アンダルシア の「分配臺帳」

AUTHOR(S):

村田, 靖子

---

CITATION:

村田, 靖子. <大會抄録>一三世紀アンダルシアの「分配臺帳」. 東洋史研究 1999, 58(3): 614-614

ISSUE DATE:

1999-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/155257>

RIGHT:

これに關連したイギリス外務省領事報告 (FO228) である。この史料分析を通し、イギリスの擔保物件法、破産法が效力を發揮した上海租界が當時の中國社會全般に與えていた「衝擊」を明らかにし、從來辛亥革命前夜の「一エピソード」としてしか扱われなかったこの恐慌の歴史的意義について考えたい。

### 一三世紀アンダルシアの「分配臺帳」

村 田 靖 子

一三世紀に入って、ムワッヒド朝が弱體化すると、カスティーリヤ、アラゴン兩國のレコンキスタは急速に進み、同世紀の終わりまでには後のグラナダ王國の領土がほぼ確定した。この世紀にキリスト教徒に占領された諸都市は、ムスリム住民の逃亡、追放のため、社會活動の擔い手が失われた。そのため、カスティーリヤ王は、速やかに臣民を入植させるべく、所有者のいなくなった土地などを「分配」した。このときの記録が「分配臺帳 *Libro de Repartimiento*」である。この史料に記された情報は基本的には、受益者名、譲渡財産（主に不動産）の内譯、財産の所在地、財産の數量などの一覽であり、西洋史においては、當時の軍隊組織や都市住民の社會構造などを研究するための重要な史料である。一方、これをイスラム側から見てみると、直前のムワッヒド朝期のイスラム都市及び近郊農業地帯の構造の再構成が可能となるのである。今回の發表では、「分配臺帳」の解説と研究状況を述べ、イスラム研究におけ

る利用法などを考える。

### カーシユガル・ホージャ家アーファーク統の活動の一端

——ヤーリング・コレクシヨン Prov. 219

について——

新免 康・菅原 純

一七〜一九世紀の東トルキスタン史において、トゥルク系ムスリムが政治面で主體的な活動を展開する際に、いわゆるカーシユガル・ホージャ家はつねに重要な役割を擔ってきた。しかし、その具體的狀況を検討するための材料は、必ずしも豊富とは言い難い。そこで本報告では、從來注目されていない史料として、いわゆるヤーリング・コレクシヨン（ルンド大學圖書館所藏）の中にある巻物狀の一寫本（登録番號 Prov. 219）をとりあげたい。

本寫本は、構成を吟味すればわかるように、ムハンマドの子孫の尊重を要求するファトワー、カーシユガル・ホージャ家のホージャたちに關わる系譜、ハーン・ホージャのタズキラ（『傳説』）という三部分からなるという特有の體裁をとっている。とくにタズキラ部分は、一八世紀半ばの清朝による東トルキスタン征服に際して抵抗したブルハーン・アッディーン・ホージャの活動に關する敘述を主要な内容としており、當時の重大事件を扱ったトゥルク系ムスリム側の史料として獨自の價值を具えている。他方、三部分を結合する